

国際化学肥料ニュース（2020年11月）

肥料業界の2020年11月動態

- * 中国政府は2020年12月1日から化学肥料の加工貿易による輸出を解禁すると発表した。すなわち、2007年4月以来、禁止されている化学肥料の加工貿易が完全解禁となり、中国の肥料メーカーが外国企業から依頼される保税加工が可能となる。その目的は中国肥料業界の設備稼働率を上げるほか、輸出を増やすことである。
また、化学肥料の輸出にかかる増徴税（税率11%）も一部または全額還付も話題となり、近い将来実現するかもしれない噂がある。
- * 11月23日、インドMMTC社が新しい尿素国際入札を発表した。これは今年9回目の尿素入札である。12月1日締め切りと開札、2021年1月6日まで船積みという条件である。入札により100~150万トン尿素を購入する噂である。
- * 中国国家统计局の最新データによれば、1~8月の中国化学肥料生産量（N、P2O5、K2O換算）が4.4%減の3688.75万トン、そのうち窒素肥料生産量（N換算）が1.7%増の2747.1万トン、尿素の実生産量が2.9%増の3825.3万トン、りん酸肥料生産量（P2O5換算）が6.7%減の1042.8万トン、加里肥料生産量（K2O換算）が0.1%減の467.9万トン。一方、国内需要量が新型コロナウイルスと大雨洪水の影響で大幅に減少した。中国農業資材流通協会の統計データによると、1~9月の肥料累計販売量が6.1%減の11172.44万トン、そのうち窒素肥料が10.6%減、りん酸肥料4.2%減、加里肥料8.8%減である。
輸出については、中国税関のデータによれば、1~8月の肥料輸出量が538%減の1078万トン、そのうち尿素輸出量が22.0%減の210万トン、DAP輸出量が12.6%減の172万トン、MAP輸出量が9.2%減の172万トン。1~8月の化学肥料輸入量が16.8%減の681万トン、そのうち塩化加里輸入量が17.9%減の554万トン、NPK化成肥料輸入量が0.9%増の95万トン。
- * 12月1日、インドMMTC社の尿素国際入札が開札された。13社が入札して、応札数量243.4万トン、最低応札価格はDrey Moor社のCFR西海岸284.77ドル/トン、Swiss Singapore社のCFR東海岸286.50ドル/トン。前回10月に行ったインドRCF社の尿素入札に比べて5~7ドル/トン高くなった。今回の入札によって、MMTC社が127万トン尿素を契約する予定といわれる。

- * ブラジルは農作物の国際相場の上昇と輸出量の増加により、尿素の消費量が大幅に増加した。2020年10月までの尿素輸入量がすでに2019年全体の輸入量に接近し、11～12月にさらに100～120万トンの輸入量がある。2020年の尿素輸入量が2019年より100万トン以上を増加し、新記録の650万トンに達する見込みである。

大手各社の営業業績

- * イスラエルのICL社は第3四半期の業績を公表した。売上高が9%減の12億ドル、営業利益が50.2%減の1億ドル、純利益が58.5%減の5400万ドル。主業の加里事業は売上高が16.8%減の6.26億ドル、営業利益が34.7%減の1.15億ドル。ただし、りん酸塩事業は売上高が13%増の3400万ドルで、一定の成長がみられた。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * Global Date社の報告書によれば、世界のアンモニア生産能力が2019年の2億5334万トンから2030年の2億8983万トンに増加し、その増加率が23%の可能性がある。特にインドは2030年までに925万トン、ロシアが777万トン、イランも770万トンの新規生産能力の増加が見込まれ、この3か国だけで新規生産能力増加分の68%を占める。また、Dangote Industries Ltd、Oteko、Nagarjuna Fertilizers and Chemicals Ltdの3社は新規アンモニア生産ラインを有するトップ3である。
- * ロシアのAcron社はVeliky Novgorod工場のアンモニア合成プラントNo.4の拡張工事を完了したことを発表した。拡張により、プラントの生産能力を21%増加し、年間生産能力90万トンになる。アンモニア合成プラントNo.4は投資総額5億ドル、2016年に完成した最新のプラントであり、今回の拡張にかかった費用は3400万ドルである。これによりVeliky Novgorod工場全体のアンモニア合成能力が220万トンに達する。
- * ポーランドORLENグループのANWIL社は3億ドルを投資して、Wloclawek肥料工場に3番目の肥料プラントを増設し、2022年完成することを発表した。完成後、Wloclawek工場の生産能力が50%増加し、年間146.1万トンとなる見通しである。
- * オーストラリアのFortescue Metals Groupは、タスマニア州ベルベイ市にグリーンアンモニアプラントの開発可能性を調査することを発表した。このプロジェクトはタスマニア島の再生可能エネルギー電力を利用して、ベルベイ工業団地に250 MWのグリーン水素プラントを建設し、それを原料にして年間生産能力25万トンのアンモニアを生産する計画である。

- * アメリカの **Koch Fertilizer** 社は 1.4 億ドルを投資して、アイオワ州にあるフォートドッジ工場のアンモニアプラントを拡張して、生産能力を 8.5 万トン増強する計画を発表した。2021 年から着工、2022 年秋に完成し、稼働開始の予定である。

その他

- * IFA は **Alzbeta Klein** 女史を新しい事務局長に任命し、2021 年 1 月から執務することを発表した。**Alzbeta Klein** 女史はスロバキア出身で、チェコのプラハ大学で工学士を取得してからカナダのオタワ大学で経済学修士を取得し、した後、カナダ輸出開発局で数年間勤務した後、1997 年に世界銀行グループに入り、世界銀行グループの国際金融公社 (IFC) 及びその他の取締役を経験した。ハーバード大学ビジネススクールで MBA も取得した。なお、**Alzbeta Klein** 女史はカナダとスロバキアの 2 重国籍を有する。
- * インドの **Grasim Industries Ltd (Grasim)** 社は肥料子会社 **Indo Gulf Fertilizers** 社 (IGF) をシンガポールの **IndoramaIndia Pte Ltd (IIP)** に譲渡することを決めた。**Indo Gulf Fertilizers** はインドのウッタルプラデーシュ州のジャグディシュプールに年間生産能力 120 万トンの尿素工場を有するが、経営不振で、長年赤字を続けている。譲渡により、**IndoramaIndia Pte Ltd** の下で再生を図る。
- * ロシアの **PhosAgro** 社と **ExactFarming** 社は衛星観測による施肥量制御システムを開発したと発表した。当該制御システムは衛星観測データを元に、植生スペクトル指標、気象データ、現地農場の圃場情報を活用して、作物の栄養状態に最適な施肥量と施肥期間を確認することができる。農家は **PhosAgro** 社の肥料パッケージに取り付けている NFC タグを使用してシステムに入力することで施肥量と施肥時間が把握できる。両社はこの新しいデジタルフィールドとモニタリングシステムが 1 万ヘクタール当たり生産コストが 5000 万ルーブル削減することができるという。
- * 中国の食糧不足が明らかとなり、輸入量が急増した。中国税関のデータによれば、1～9 月の穀物輸入量が 24.9%増の 1.0206 億トン、すでに世界の穀物貿易量の 10%を超えた。そのうちトウモロコシの輸入量が 72.5%増の 667 万トンに達した。
中国の食糧輸入量の急増により、世界の食糧輸出価格が大幅に上がった。アメリカ産トウモロコシ、ロシア産小麦、フランス産大麦の輸出価格が 5 月以降だけですでに 30%も値上がりした。また、シカゴのトウモロコシと小麦の先物価格が 8～10 月の 3 か月でそれぞれ 25%と 17.5%も上がった。国連が発表した世界の穀物価格指数がこの 5 年間最高となった。